

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：6月ユーロ圏消費者物価(速報)

発表日：2014年7月1日(火)

～夏場に一段と上昇鈍化の恐れ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

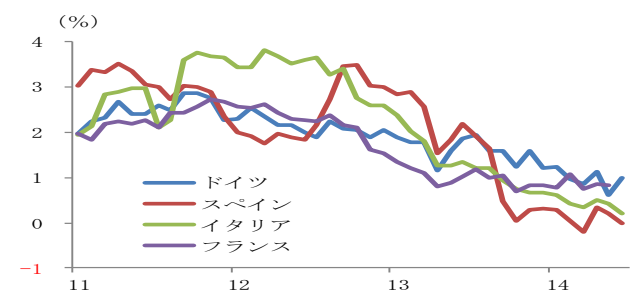
- 6月30日に発表された6月のユーロ圏の消費者物価(HICP)の速報値は前年比+0.5%と、前月(同+0.5%)から横這いとどまり、9ヶ月連続で1%を下回った。速報時点で公表された内訳は、コア物価が前月：同+0.7%→今月：同+0.8%、エネルギー価格が同横這い→同+0.1%と何れもやや上昇が加速した一方、食料・アルコール飲料・たばこ価格が同+0.1%→同▲0.2%と再び前年割れ。公表済みの国別の結果は、ドイツが同+0.6%→同+1.0%と前月から上昇率が加速した一方で、イタリアが同+0.4%→同+0.2%、スペインが同+0.2%→同横這いと揃って上昇率が鈍化した。
- 6月のコア物価の小幅上昇加速はサービス価格が牽引した。ユーロ圏全体の詳細な内訳は速報段階では公表されないが、内訳を公表済みのドイツの州別動向から判断して、5月に下振れしたパッケージ旅行の反動増が影響した模様。既報の国別推移から計算すると、ドイツ、イタリア、スペインを除くユーロ圏の消費者物価は同+0.5%→同+0.5%と横這い。ユーロ圏全体の物価はドイツに牽引され一段の上昇鈍化を回避したものの、南欧諸国を中心にデysinフレ基調が強まる兆しもある。足許の原油高にもかかわらず、前年同月の“裏”もあり、エネルギー価格は8・9月にかけて物価を一段と下押しする可能性がある。夏場にかけても物価の低迷が続く公算が大きい。
- ECBが6月の緩和パッケージの効果を見極めるには時間を要するほか(TLTROやABS購入はまだ開始されていない)、既にECBのスタッフ見通しでデysinフレの長期化を予想しており、1%割れの物価が定着すること自体がECBの追加対応を促す訳ではない。物価が持続的に前年割れ、景気が再び後退局面入り、急速なユーロ高進行がない限り、年内の追加緩和は見送られると予想する。

■ユーロ圏：消費者物価(前年比)



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギー除く  
 出所：Eurostat

■ユーロ圏：主要国の消費者物価(統一基準、前年比)



注：フランスの6月値はまだ公表されていない  
 出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価(%)

		2013				2014							
		3Q	4Q	1Q	2Q	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
消費者物価	(前期比)	0.5	-0.1	0.2	-	0.0	0.1	0.1	0.1	-0.1	-0.0	-0.0	-
	(前年比)	1.3	0.8	0.7	0.6	0.9	0.8	0.8	0.7	0.5	0.7	0.5	0.5
コア消費者物価	(前期比)	1.1	0.8	0.8	0.8	0.9	0.7	0.8	1.0	0.7	1.0	0.7	0.8
	(前年比)	2.8	1.3	0.9	-	1.1	1.4	1.3	1.0	0.5	0.1	-0.6	-
食料品	(前期比)	2.6	2.7	2.6	-	2.7	2.8	2.9	2.4	2.5	2.2	2.3	-
	(前年比)	5.2	4.0	3.9	-	4.0	4.0	3.9	4.1	3.7	3.7	3.6	-
エネルギー	(前期比)	0.1	-0.9	-1.9	-0.4	-1.1	0.0	-1.2	-2.3	-2.1	-1.2	-0.0	0.1
	(前年比)												

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。 出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。